



## 『なんでもかんでも？』

大浦中学校 二年 船口 千夏

私は最近、「ハラスメント」という言葉に対して違和感を覚えることがあります。今の世の中は、個人を尊重しようという考え方が広まっていて、それはとても良いことだと思います。しかし、嫌なことは何でも「ハラスメント」と言ってしまえばよいという風潮は間違っているのではないかと思います。そもそも、「ハラスメント」という言葉は、「嫌がらせ」という意味です。少し前までは、「セクハラ（セクシャルハラスメント）」「パワハラ（パワーハラスメント）」くらいしか耳にしていなかった。しかし、最近「ハラスメント」の種類がたくさんあり、その中には「これは矛盾しているのではないか。」と思うものもあります。

私が所属している部活動では、顧問の先生は本気で厳しく指導して下さいます。そのおかげで、楽しく充実したものになっていると思います。しかし、先輩や友人同士で、本気で感情をぶつけることはありません。なぜ怒らないのか気になっていたところ、ある人が「怒ったらハラスメントになるから。」と言っていました。私は、驚きました。まだ子どもなのにそういうことを気にしているのかということと、子どもまでもがそんなことを気にするのかと思いました。しかし、何より思ったのは、私たちは、何かを指摘されたり悪いことを対して怒られたりするのとは別に気にしないのになということ。この出来事で私は「ハラスメント」の問題が矛盾していると感じたのです。ハラスメントだと言われないようにしていると、そのせいでなぜそれをしないんだという不満や疑問をもつ人たちがいます。私は、「ハラスメント」を気にしすぎて、指摘しないなど、必要なことをやめてしまうのはおかしいと思います。だからといって、相手のことを何も考えずに行動すると、集団生活ができません。そこで私は、「ハラスメント」に関することを題材として学校教育に取り入れたらいいのではないかと考えます。

例えば、何に対しても「ハラスメントだ！」と言う人がいるとします。社会は集団生活なので、そのような考え方が通ってしまうと、その人自身も周りも心に余裕がなくなってしまう。そうならないように、考え方や心が育つ家庭でじっくりと考える機会が必要だと思います。小・中学生は多感な時期といわれます。まだ育ちきっていない時だからこそ、様々な考え方を柔軟に受け入れることができます。そのため、社会に出た時、周りの人たちと手を取り合いながら過ごしていけるように、適切な教育が必要だと思います。最近、小・中学生でもスマホを持ち、簡単に世界中の人たちとつながることができたり、たくさんの情報を知ることができたりすることから、先生生徒の関係も、少しずつ変わってきていると思います。昔の学校教育とは指導の仕方が変わってきていると聞きます。力

でおさえつけるのではなく、言って聞かせなければなりません。間違っていることは間違っていると、言葉や行動で先生自身が示さなければいけないのです。しかし、生徒の身の安全を守るため、社会のルール・マナーを教えるため、厳しく、強く指導しなければならないこともあると思います。そのような生徒を思っただけの指導に対して、「ハラスメントだ」という意見が出ると、とても大変だと思います。そのような考え方は、親から子へ、そして社会全体に広がって長く続いていくのではないかと思います。そうすると、必要な指摘や指導がなくなり、社会全体がモラルやルールのないものになってしまうのではないのでしょうか。だから私は、子どものうちから、どんな答えがあってもよくて、間違いも正解もない道徳などの学校教育で学び、子どものうちに視野を広げることが重要だと考えます。

私は、「ハラスメント」について大人も子どももしっかりと、学ぶ機会を作るべきだと考えます。さらに、様々な価値観や知識に触れ、子どもから大人に教えることがあってもよいと思います。何でも「ハラスメント」でくくってしまうのではなく、お互いに受け入れ合い、悪いことは指摘し合える社会であってほしいと願います。